

クロマグロ種苗生産試験

企画・栽培養殖部 研究専門員 外菌博人

目的

- 鹿児島県のクロマグロ養殖生産量は全国1~2位
- 養殖用種苗は天然に依存
- 世界的な資源減少や資源保護の動きで種苗の確保が困難
- 養殖用種苗確保のため、漁業者経営体でも対応可能な小規模施設での種苗生産技術の開発が必要

方法

1 受精卵の運搬・ふ化



供試卵	水産総合研究センター奄美庁舎が採卵(8/17)した20万粒
輸送	ビニール袋・発泡スチロール2セットで、輸送時間は8時間35分
洗卵	50ℓアルテミアふ化水槽で1時間
育卵	円形20kℓ

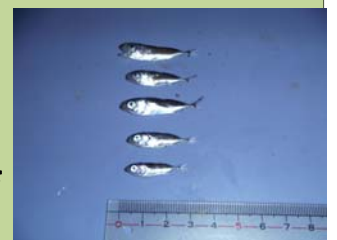
2 初期飼育(日齢15まで)

供試魚	ふ化仔魚16.5万尾
水槽	円形20kℓ
水温	26.7~28.2℃
餌料	ワムシ(日齢2~), イシダイ仔魚(日齢12~)

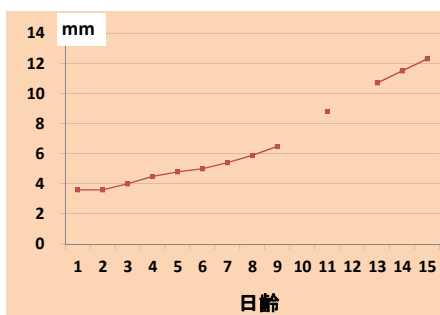


結果及び考察

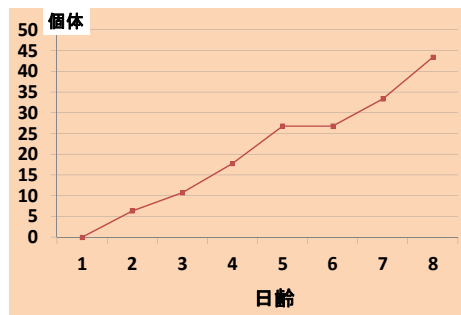
- ふ化率: 75.0%
- 初期生残: 日齢15(全長12.3mm)で約8千尾(4.8%)
- 底水流や24時間照明の効果で沈降死や浮上死が減少
- 日齢13以降の共食い激化
- 初期飼育試験の生残魚を引続き後期予備試験として飼育
...配合飼料への切替えや水槽壁への衝突等の課題
- 小規模施設で効率的に種苗を生産できる可能性が示唆



日齢30



全長



ワムシ摂餌数



日齢13